

支部便り

平成22年7月みつわ会東北支部

草も木もどっと伸びたり 梅雨に入る 圭舟



5月の総会はお陰様で盛会でした。参加された皆さん、お便りを頂いた皆さん、ありがとうございました。それにしても次の総会が巡ってくるのが早いですねえ。そのせいか、会う人が昨日会ったかの様に全然歳をとっていません。何よりのことではあります。さて、今月は前回支部便りに紙面の都合で掲載出来なかった寄稿を、友彦さんのハクサンチドリ（右上）を添えてお届けします。

——— 白井顧問と東北みつわ会 星利夫 ———

日 新火災みつわ会仙台支部（東北支部の前身）が、当時取締役仙台支店長の白井力様の肝入りで、加島支部長の下会員7名で全国3番目の支部として発足しましたのは、昭和50年（1975年）のことで「会員相互の親睦と会社への協力」を趣旨として、まさに35年の歩みを続けております。その間、加島支部長に次いで菅野支部長、そして昭和57年（1982年）から平成5年（1993年）までの長きにわたる阿部支部長、次いで橋本支部長、佐藤（武）支部長、葛西支部長、筆者そして佐藤（尚義）支部長が継承してきましたが、世代が若返って川口支部長そして現在の加藤支部長が就任されております。

爾来35年趣旨に沿って、例会を中心に、お互いに顔を見合わせて、日頃の生き様を披露し合ったり談笑に時

を忘れて過ごす一刻、時には現職の本部長、各部の幹部から、その時々の日新火災自体、取りまく経済環境等に就いてお話しいただくなど充実した活動を続けてまいりました。また同好の士によるゴルフ、カラオケ、囲碁などの趣味の集りも随時開いて懇親を深めてきております。

それにつきましても、私達のみつわ会東北支部そして個々の会員につきましても、常に愛情と関心を持たれて、陰に陽にみつわ会の発展に尽くされて来られました白井顧問から、この度、顧問御辞退のお申し出がありました。支部長はじめ幹事一同の御翻意のお願いにも卒寿を機にとの御決意が固く、お申し出での受理のやむなきに至りました。白井顧問のこれまでの会への御貢献は、前人未踏とも云うべきもので、このような大盤石の基盤の上に

当みつわ会の今日の姿があります。このように本会を設立から今日まで育て上げられた御名跡の後任に、私如き若輩が推薦され、幹事会に付されたことは、まさに驚天動地以外の何ものでもなく、同時にその名に値せずまた、その任にあらずとの思いで即刻ご辞退申し上げるべきと判断して、その旨を申し上げましたがならず、苦慮の末、私でお役に立つことがあるならばベストを尽くす以外にないとお引き受けした次第であります。

巨木を仰ぐ思いで、あらためて、白井ご先輩の足跡に思いを致せば、ここに、みちのく損保会について付言する必要があります。

東北みつわ会と同様、「みちのく損保会」も白井顧問の提唱よる設立で、その趣旨に賛同した各社のご先輩達の御努力により、呱呱の声を上げましたが、今や200名になんなんとする大団体に発展いたしました。その創立当初、白井顧問は、設立委員の選定、設立趣意書の文案から、当時の損保協会仙台地方委員会の協力取り付けな

どを中心になって奔走された後、見事に設立の成功となったものです。後に、会長にも就任され、会員の増強、基本的部会の設置等基盤を固められた後、時機をみて退任され、現在、相談役として後進の御指導に当たっておられます。“盛岡を偲ぶ会”も御趣旨にそって設立されて、現在部会のなかで例会に20数名の会員が集うております。

何よりも、みつわ会東北支部の大久保和彦副支部長、佐藤尚義元支部長が各々みちのく損保会の会長、副会長に就任されて、会の増強、活性化に大きく貢献しておられるという事実が、東北みつわ会設立の延長線上に、白井顧問の損保事業従事者の定年後にも充実した日々をとの思いが大きく実を結んだ証左ではないでしょうか。

筆舌に尽くしがたい思いが多々ございますが、これまでの御厚情に対しまして深く感謝申し上げますとともに、益々のご健勝をお祈り致しまして閣筆いたします。

7月の行事

	支 部	みちのく損保
7月 1日 (木)		ゴルフ
7日 (水)	幹事会 4時 (総会決算他) ※	
10日 (土)		麻雀
22日 (木)	昼食会 12時 「しゃぶ禅」 ※	
24日 (土)		LPコンサート

※新しいメンバーも揃ったし、終了後全員で軽く(?)ね。幹事以外の方も合流歓迎です。

※出席の連絡は7月16日(金)までに友彦さんか、業務伊藤さんに。

☆8月支部便りはお休みです